

「航空会館」の誕生

—その歴史と展望について—

財団法人日本航空協会 伊 藤 等

(編集室長)

§ はじめに

昭和53年11月20日、わが国の航空界にとって待望の“航空会館”が竣工し、政・官・民各界代表者、およそ2千人近い人々が参加するなかで、竣工披露が催された。再建された航空会館は、航空界と国民との交流、航空関係諸団体、企業などの相互間をはじめ、個々人にあっても有機的な交流の場として、いわゆる航空コミュニティセンター的役割を果たすほか、さらに今後21世紀にかけて、航空界のシンボルともなるべき使命をになうことを目的として再建された。

昭和27年、戦後7年間の空白を経て航空が再開され、四半世紀を経た今日、わが国航空界にとって、まことに相応しい事業の一つであるとして、広く有識者からの評価を得ているが、この歴史的な航空会館の再建に伴う経過と内容について、その概要をまとめ、関係者の理解を得るとともに、目的である航空と国民との交流の場としての使命が十分に果たせるよう、ご協力をお願いする次第である。

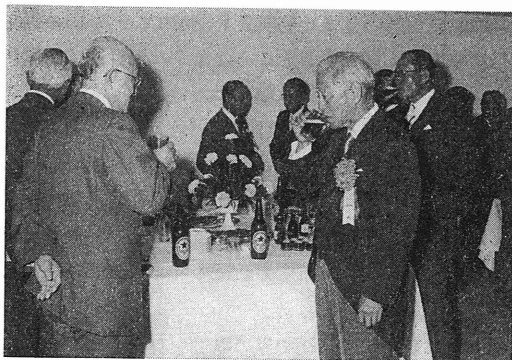


写真—2 航空会館の全景

§ 航空史（戦前）のなかの飛行館

航空会館の前身は飛行館である。その飛行館は、昭和4年に建設され、解体されるまで48年の風雪に耐えてきた。その間飛行館が眺めたであろう社会の潮流も、人情も、またその出会いもさまざまであったろうが、かつてこの地が田村町であった頃、その地名と飛行館は、都民といわず、地方といわず、人々の脳裡には飛行館と田村町は全くの同義語のごとく結びついていし、今でもその名残りには大きな余韻がある。

このことは、戦後26～7年頃から、飛行館ホールを活用して、NHKが、大衆人気番組の全国放送を行っていたことが、直接の原因になったことは否定できないが、そこに至るまでの10数余年に及ぶ飛行館の歴史



写真—1 竣工式で談笑する柳田会長(右)と松本航空局長

があったことを見逃すことはできない。

まず最初に飛行館の歴史（戦前の）からふれてみることにしよう。飛行館を建設したのは、大正2年に設立された帝国飛行協会である。その頃世界中は、あげて航空熱でおおわれ、多くの鳥人達が天空への夢と希望を追い求め、航空が交通運輸、国防上重要な役割を果たすことの意義が内外で高まるにいたった。

こうした諸事情の反映から、わが国にあって、航空機を展示し、航空図書を収集して、航空の啓蒙普及をはじめ、鳥人達の「よりどころ」の必要性が強調されて、飛行館の建築議案が帝国飛行協会で論議されることとなった。

当時、協会の副会長であり、ひげ將軍で有名な長岡外史陸軍中將は、陸軍省の土地（現在航空会館が建設されている場所）270余坪を、大蔵省から払下げをうけて、ここに建設するとの方針を決め、大正15年9月の理事会で可決するところとなった。以来、さまざまな努力を重ねて、昭和4年に完成されたわけであるが、その頃の金額で総経費66万円が計上されて、地上6階、地下1階、鉄筋コンクリート建てのユニークな建物が誕生した。

その頃の飛行館は「建物の外形は、すっきりした白い線と面で、資生堂のような肌ざわりがする」(グラフィック/日本の航空—航空史のなかの飛行館、筆者法政大学名誉教授松浦四郎氏、日本航空協会発行)、「飛行館は、昭和4年6月竣工して、日比谷公園に近い芝区桜田本郷町、現港区新橋1丁目<旧田村町>の一角に近代的な容姿を誇るように出現して、東京の新名所と評判になった」(エアワールド—49年正月号、飛行館の思い出、筆者航空史家郡捷氏)と、それぞれ評されているように、かつては、観光名所の一つに数えられるほどの存在であった。

とりわけ名声をはせたのは、昭和6年、米国の空の大使といわれた、リンドバーグ大佐夫妻が、飛行館ホールで講演したり、徳川少将と会見したり、あるいは、訪日の親善飛行家、ブルース夫人、アミー・ジョンソン嬢(英)、メンシュ、ビュルタン、マリーズ・イルズ嬢(仏)、フォン・グロナワ、エッツドルフ嬢(独)ロンバルジー、カンパニーニ(伊)ら、世界各国から訪れる飛行家達が、この飛行館を舞台として交流したのである。

それにかの有名な、昭和11年2月の2・26事件の際、屋上から「勅令下る。軍旗に手向かうな」のアドバルーンがあげられたことを記憶している人は多くないであろうが、そういうこともあった。

また、昭和4年に設立された、日本航空輸送株式会社(昭和15年に国際航空を合併して大日本航空に改称)も、11年間ここに間借りをしていたし、館内には、飛行館ホールは勿論、1階には、航空博物館的役割を果たす施設が整備され、ドボアチンDC1が置かれ、模型航空機など、さまざまな部品、資料が展示されていた。航空記者室も設けられて、国防上、交通運輸等に関する記者発表が行われたり、飛行館は、多目的に使用され、自由闊達な空気のなかで、航空揺籃期を支え、かつ貢献し、航空発展の礎を築く役割を果たしてきた。

しかし、日支事変から、太平洋戦争と非常時体制の時代を迎えて、帝国飛行協会は、昭和15年に航空諸団体を統合して、大日本航空協会に改組され、かつての大空へ夢をはせる、はなやいだ空気は次第に消えていった。

§ 航空史(戦後史)のなかの飛行館

わが国の航空は、終戦とともに、GHQの指令により、すべての翼を失った。7年の空白を経て、昭和27年5月、講和条約の発効、つづいて7月に航空法が公布、施行されて日本の空は、日本人の手にかえってきたのである。

戦前、大日本航空協会の活躍の舞台であり、航空の揺籃の時代を支えてきた飛行館は、建設時の趣旨とその目的を完全に果たせないまま、終戦を迎えたが、幸い戦火も免れ、航空禁止令のもとでは、(財)通信科学振興会と、社団法人興民社が管理にあたっていて、GHQの接収にもあわなかった。

戦火をまぬがれた飛行館は、NHKが、飛行館ホールを仮スタジオとして、昭和26年よりはじめた「三つの歌」をはじめ、「のど自慢」「日曜娯楽版」などの大衆娯楽番組などが、全国放送されたり、戦後の聴取者参加公開放送の重要な場所ともなっており、わが国の民主化にも大きく貢献するところとなり、飛行館は全国津浦浦迄知られるようになった。

やがて、日本人の手には日本の空がかえり、わが国に航空発展の必要性が強調され、併せて航空思想の普及と啓蒙が望まれて、昭和27年10月、財団法人日本航空協会が設立されて飛行館は2団体から引き継がれ、焼土のなかから、戦後航空界活躍の「よりどころ」としてよみがえるにいたった。

以来、飛行館は、航空界の発展を目ざして設立された、さまざまな団体が間借りして、ここを舞台に活躍する一方、今日の全日本空輸の前身である、日本ヘリ

コプター輸送会社が、昭和27年設立されるとともに飛行館内に本社をおき、32年極東航空との合併で、今日の全日本空輸に改称したが、17年間の長い間、ここを本拠として、今日の基礎を築いてきた。また戦後初の国産機YS-11を開発した日本航空機製造も、ここ飛行館で発足した。

このように飛行館は、わが国の2回に及んだ航空の揺籃時代を迎えて、いずれも、その時代の航空界のよりどころとしての役割を果たした思い出の建物であった。戦前、戦後を通じて、航空史のなかの飛行館は、広く国民に親しまれるとともに、いまなお、多くの人の脳裡に留められている。

かくして建設以来48年の歳月を経た飛行館も、寄る年波には勝てず、戦後急速に発展したわが国航空新時代に対応するためには、旧飛行館を解体して、新時代に即応した新しい姿にすべきであるという考えが航空界内部からは勿論、各分野から強調されるようになった。その一案として、飛行館再建案が誕生するにいたったわけである。

ここに、航空各界の与望をになって、財団法人日本航空協会は役員陣の刷新を行い、新会長の柳田誠二郎により48年5月第1回理事会で、昭和4年以来、約半世紀の間、わが国航空界とともに歩みつづけた飛行館は解体されることに決まり、新たに、近代的な航空コミュニティセンター的な施設を伴った、新館の再建構想が打ち出されることになったのである。

§ 航空会館の建設とその背景

新飛行館は、再建途上で49年11月航空会館に名称変更されたので、以後は航空会館と呼称することにするが、この航空会館の再建構想など、建設の具体化にあたってその概要を述べなければならない。

まず第一は、再建計画である。

当初の段階では、建物の内容については、航空会館のショールーム、厚生施設、健康増進センター、ホテル、結婚式場、海外旅行センターなど、さまざまな要望が出された。しかし、敷地面積の狭隘、面積配分の競合、資金ならびに採算上の見通し難などの理由から、また経営上の安定をはかるために、公益事業施設を航空図書館、研究室、展示室、研修室、会議室、食堂、航空クラブ用諸施設として、これらを6階～9階までの2,038㎡（616坪）に圧縮、一方5階以下の約2,880㎡（871坪）を、収益事業施設として、安定企業に賃貸することで、資金並びに収益面からの効率的な運用を図ることが決定された。

第二に資金である。当初計画では、総資金量は、28億3千万円とし、資金調達は、銀行借入金11億9千万円、受入保証金等を8億9千万円、残額7億5千万円を、航空界からの募金に依存する方針が決定され、とくに、建設協力金の募金活動は、航空界、特に定期航空会社を中心とする強力な支援により順調に発足したものの、石油ショックを契機として経済活動の後退に遭遇し、一方、テナントの立退きにあって一部交渉が難航し、1年半の遅延を余儀なくされた。このため立退保証金の増額、着工延期による金利負担、諸費用の増加が決定的となって、当初計画に基づく資金量は、3億6千万円余増の31億9千7百万円となった。この結果、調達のための建設協力金募金目標を10億円（募金活動を財界に依頼し、経済団体連合会の協力のもとに、3億円の醸出を要請）、銀行借入金11億8千万円、さらに賃貸面積の増加による受入保証金等を10億1千万円余にする等の計画の修正が行われた。

第三には、テナントの立退きと、建設業者の選考、決定、工事の推進である。旧飛行館の再建計画方針が決定されたときには、館内には22社が間借りしていた。計画では、工事期間は、現入居者との立退き交渉の見通しを含めて、計画完成まで約40ヵ月が見込まれ、52年夏には竣工する予定で推進された。そして、50年度で一般入居者11社が移転を完了することが決まったため、日本航空協会は、テナントの航空関係8団体とともに49年7月、本部事務所を港区赤坂猿田ビル内に移転した。

しかしながら、入居者の渡辺プロダクション関係2社と、田中齒科についての交渉が難渋し、旧飛行館解体工事が着手されたのは、昭和51年12月末であった。

一方基本計画策定のための設計業者は、航空界とも最も関係が深い梓設計が指名され、約1年を費やして、昭和49年度第1回理事会で、航空会館建設計画が決定された。それとともに、建設業者は、申込業者24社の中から、6社が指名され、競争入札の結果、鹿島建設と清水建設の共同企業体を工事発注先として決定（49年9月の常任理事会）した。

着工以来24ヵ月で竣工の運びとなった航空会館は、敷地867㎡、延床面積7,220㎡、鉄骨鉄筋コンクリート造りの地下1階、地上9階塔屋で、総工費20億3千万円である。特記されることは無事故記録を維持しつつ、多くの難工事を克服したことにつぎが、飛行館が大正12年関東大震災直後の立案、施工だったためか、基礎工事に、末口径平均45cm、全長20m以上の松

〔特別よみもの〕

杭が1m間隔に計800本も使用されていたことである。このため松杭の除去、切断作業のため、新工法の開発と、2ヵ月余の日数がかかり、これも遅延の大きな原因となった。

また、設計上の特色は、航空会館は、航空界の中心となる建物であるため、航空のイメージを表現し、かつ親しみやすい建物になるよう計画が進められ、外観は、ブルー系熱線反射ガラスが用いられ、カーテンウォールと白色系の吹付タイルの垂直に、空へのびるストライプで構成し、空の青、雲の白が表現され、大通りに面したピロティの2階スパンドレルには、航空史の変遷をあらわす、エッチングによるステンレスチールの膜板が取り付けられ、内装部には、航空クラ

ブサロンの天井に、旧飛行館総裁室から復刻脱型した、鳳凰の彫刻が再現され、故きを温めるよすがともされている。

§ 館内施設、「航空クラブ」の誕生

第2表に示されるとおり航空会館は、9階—航空クラブサロン、クラブ事務所、第1、第2サロン、別室

第1表 航空会館の規模と貸室料金

大ホール	274㎡(83坪)200人 (専用受付・放送室付)	第3研修室	97㎡(30坪)70人
中ホール	139㎡(42坪)90人 研修室または展示場(展示用パネル壁内埋込み壁面60m)として使用可。	航空図書館	図書館法にもとづく航空専門図書館として昭和30年以来運営され、年間多数の閲覧者に利用されています。
第1会議室	108㎡(33坪)70人	レストラン	128㎡(32坪)80席
第2会議室	83㎡(25坪)55人	和食堂	83㎡(28坪)45席
第3会議室	83㎡(25坪)55人 (以上3室通して上記大ホール)	※会員食堂	66㎡(20坪)30席
第1特別会議室	40㎡(12坪)12人	※バー	21㎡(6坪)10席
第2特別会議室	46㎡(14坪)12人	※サロン(第1)	33㎡(10坪)
小会議室	20㎡(6坪)5人 各会議室は食会合もできます。	※サロン(第2)	108㎡(33坪)
第1研修室	40㎡(12坪)25人	※相談室	12㎡(4坪)
第2研修室	46㎡(14坪)25人	※休憩室	20㎡(6坪)
		※屋上庭園	160㎡(50坪)
		※クラブ受付、事務室	
		※印はクラブ専用設備	

航空会館貸室料金

53.11現在

階	室名	広さ	人数	午前 09.00~12.00	午後 13.00~17.00	夜間 18.00~21.00	全日 09.00~21.00
7F	大ホール	274㎡(83坪)	180~200人	68,000円	90,000円	100,000円	200,000円
7F	第1会議室	108㎡(33坪)	70	29,000	38,000	43,000	99,000
7F	第2会議室	83㎡(25坪)	55	23,000	30,000	33,000	77,000
7F	第3会議室	83㎡(25坪)	55	23,000	30,000	33,000	77,000
7F	第1特別会議室	40㎡(12坪)	15	8,000	10,000	10,000	25,000
7F	第2特別会議室	46㎡(14坪)	15	8,000	10,000	10,000	25,000
7F	小会議室	20㎡(6坪)	5	3,000	4,000	4,000	10,000
6F	中ホール	139㎡(42坪)	90	24,000	32,000	36,000	83,000
6F	第1研修室	40㎡(12坪)	25	6,000	8,000	8,000	20,000
6F	第2研修室	46㎡(14坪)	25	6,000	8,000	8,000	20,000
6F	第3研修室	97㎡(30坪)	70	18,000	24,000	24,000	60,000

I、II及び屋上庭園、8階—航空クラブ会員食堂、クラブバー、レストラン(スエヒロ)、和食堂(網元満平)、7階—第1会議室(70名収容)、第2、第3会議室(各55名収容)、これら3会議室通して大ホール(200名収容)になるとともに、他に第1、第2特別会議室、小会議室が設けられている。

6階には、昭和30年に新設された航空図書館(約

賀

正

昭和交易株式会社

代表取締役 篠原英夫

〒151 東京都渋谷区西原一丁目23の6 電話(03)465-0611(代)

第2表 航空会館の各階別配置

事務室	同上庭園	電話室	別室II	別室I	第二サロン	第一航空クラブ	9階
電話室	「網元満平」和食		「スエヒロ」レストラン		会員食堂	バ航空クラブ	8階
電話室	小会議室	第二特別会議室	第一特別会議室	大ホール 第三「」第二「」第一会議室			7階
電話室		第二研修室	第一研修室	中ホール	研究室	航空図書館	6階
テナント							5階 2階
「コヒーシヨップ」 「パウリススタジオ」	玄関ホール	航空会館					1階
(航空協会) 倉庫	倉庫	運転者控室	巡査立寄署	愛宕警察署	防災センター	航空理會室館	地階

120㎡)が、装いもあらたに開設、和書3千余、洋書5千余冊に、和洋雑誌が各々百種類と、約1万余の蔵書が整備されて、一般研究者のために供されているほか、中ホール(90名収容—このホールには約60mの壁面装置があり、ギャラリーとしての使用もできる)、第1、2研修室(各25名収容)、第3研修室(70名収容)が設けられて、広く一般の利用に供されるよう、配慮されている。

また5階は、日本石油基地、4階—日本石油開発、3階—地下1階—住友信託銀行が入居(貸室)している。

なお、航空会館竣工に伴って発足した「航空クラブ」は、すでに八百余名の会員により、同館9階、8階の一部を各々専用施設として占有するとともに、会の趣旨にそって、すでに活動を開始している。

このクラブは、わが国航空界にあっては、初の試みであっただけに、広く関係者から注目されていたが、航空協会事業の趣旨にそって結成されたもので、今後大きな期待が寄せられている。その内容は会員相互の親睦と啓発を図り、航空を通じて社会の発展に寄与することを目的(クラブ規約第1条)に、その目的達成のため、①研修会、懇談会などの各種行事、②クラブ施設の運営管理、③会員相互の福利厚生、④刊行物の発行などが行われる。

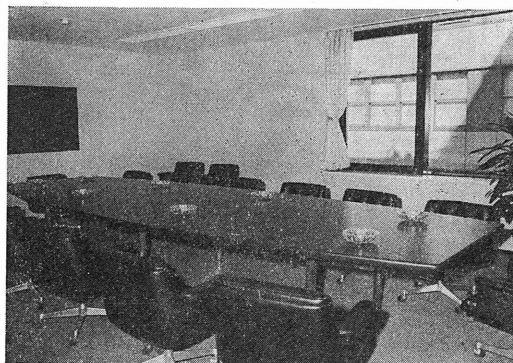
会員になるには、日本航空協会の会友資格(協会事業の趣旨に賛同し、法人の場合協力金2口以上、個人は1口—1口15万円)を取得してのちに入会手続きを行うことになるが、入会後の年会費は中央が2万円、地方は半額となっている。

会員の特典は、会員の配偶者は同等の資格で特典(クラブ・協会主催行事への参加、クラブ施設の利用、会館内施設の割引利用、内外ホテル、保健施設、リゾートクラブ等特約施設の利用、協会刊行物の配付・割引斡旋など)を受けることができる。

§ おわりに

以上のごとく、昭和53年11月20日旧飛行館が50年におよぶ使命を果たした跡地に、装いも新たに、新使命を背負った航空会館が再建、開館した。

航空は、かつての鳥人たちのみの世界から、70余年を経た今日、すでに人類の誰もが享有できる時代へと



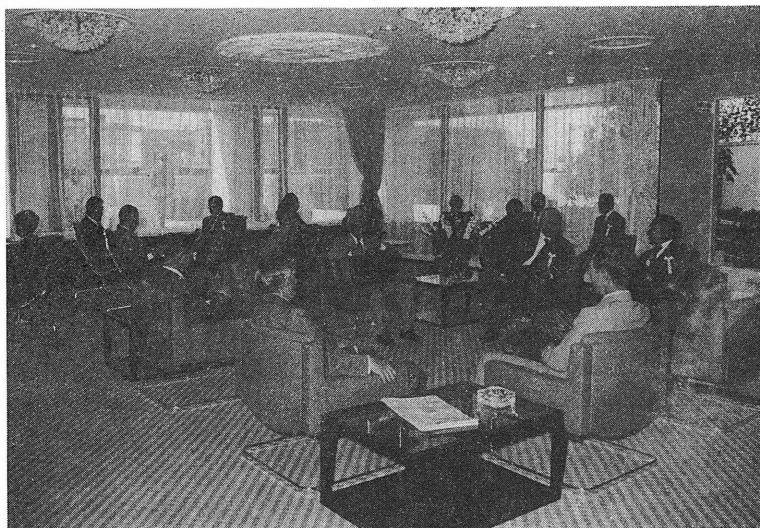
写真—4 館内特別会議室

大きく脱皮してきた。少なくともわが国の航空は再開以来、急速な発展をつづけてきたが、その真価が問われるのはむしろこれからではあるまいか。

航空は空で考えるのではなく、地上で、しかもより広い国民の声のなかで思考され、問いなおされていかなければならないものと考えられる。

航空クラブの意義も、航空会館の使命も、そのルーツをたどれば、まさにここに要約されてくると思われるのである。

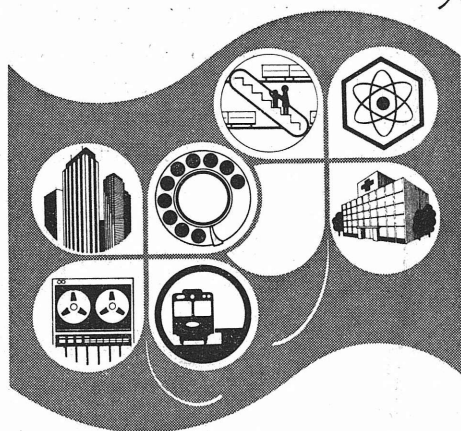
冒頭で述べたように、航空会館は、航空界と国民を結ぶための架橋役になるとともに、一方においては、末永く航空に関心を寄せる人々の心の故郷であり、21世紀につながるシンボルとしての使命を背負い、わが



写真—5 航空クラブサロン

国航空界の発展のために寄与する活躍の舞台となっていくことを願い、航空会館誕生に際し、本誌上をかりて経過をご紹介する次第である。

MODAIR



理想的な空気環境をつくり
人々の健康と企業の発展に貢献する
技術の東熱

あすの空気調和をになう

東洋熱工業

本社 〒104 東京都中央区京橋2-5-12 ☎(03)562-1351(大代表)
支店/営業所 仙台・横浜・名古屋・大阪・広島・九州/札幌
京都・水戸・千葉・高松